



ブラジノキ

89 編の端書きは **マスキール** (瞑想的な詩)。エズラ人エタンの詩です。88 編の詩人ヘマンと同じく、知恵においてソロモンに次ぐ賢人達の一人であり、神殿の詠唱者、青銅のシンバルの奏者としてヘマン、アサフと共に選ばれた人でもあります。エタンの賛歌はこれ1篇だけです。

ヘマンが助けを求めて、切迫した口ぶりで切り出しているのに対し、エタンは神の愛と真実を賛美し、それをとこしえに告げますと、品格と礼儀を備えた態度で歌い始めています。けれども、エタンは紳士的な、冷静な態度をもって、神の祝福の「契約不履行」を訴える民の弁護人として、神に要求を突きつけています。

2 連で、エタンはこの賛歌を歌う根拠、神に求める理由の根拠を述べています。「**わたしが選んだ者とわたしは契約を結び／わたしの僕ダビデに誓った／あなたの子孫をとこしえに立て／あなたの王座を代々に備える、と。**」〔セラ (4) 神が民と契約し、ダビデの王座を代々に備えると誓約されたと訴えます。〕

3 連では神の真実の姿として告白することは、神が超越神、創造主、全世界の支配者、祝福と裁きの審判者であるということだと、神を褒め称えます。4 連では神の輝き、光の中を歩む民は心強く、奮闘し、守られていると、感謝します。5 連では神がダビデを選ばれたこと **わたしはわたしの僕ダビデを見だし／彼に聖なる油を注いだ。(21)**、ダビデを祝福し、約束されたこと **わたしの真実と慈しみは彼と共にあり／わたしの名によって彼の角は高く上がる。(25)**、それに対してダビデが応答したこと **彼はわたしに呼びかけるであろう／あなたはわたしの父／わたしの神、救いの岩、と。(27)**、そして神が **わたしは彼を長子とし／地の諸王の中で最も高い位に就ける。… わたしの契約を彼に対して確かに守る。… わたしは彼の子孫を永遠に支え／彼の王座を天の続く限り支える。(28)** と、父と子のような関係であると、神の契約に再び言及します。

6 連で、契約を守らない民への罰、**彼らの背きに対しては杖を／悪に対しては疫病を罰として下す。(33)** に言及しながらも、**それでもなお、わたしは慈しみを彼から取り去らず／わたしの真実をむなしくすることはない。(34)** と、神の罰にも猶予があったと訴えます。しかし民の苦しい現状を見れば、神はこの慈愛の契約を破棄していると思われるので、8 連、9 連で抗議しているのです。王座は奪われ、砦は廃墟となり、掠奪を受け、神は隠れている、と。

最後の 10 連では、詩人は民の罪を自覚し、悔いて、救いを求めているというよりは、神の契約不履行に民は苦しんでいるという思いを率直に訴え、神を責めています。しかし、神は必ず契約を守られる方であるという揺るがない信頼に立っているからこそ、エタンは訴えているのでしょう。

主をたたえよ、とこしえに。アーメン、アーメン。(54) と、ひたすらに神に心を捧げています。

『讚美歌 21』には 89 編の関連讚美歌はありますが、特定の句を関連させていて、詩編の内容とは合致していません。ジュネーブ詩編歌は、リコーダーの美しい二重奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=nldzva2aqiQ&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=89>